

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第98版

理念と実践で 絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一主義」の理念をカグヤクルーの日々の出来事からの内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

磨きあう

熊本県にある社会福祉法人白川園様と法人全体のミッション(理念)を発信していくためのキックオフミーティングを行わせていただきました。こちらの法人様は介護、医療、児童、発達支援と様々な分野から法人の理念実現を進めていらつやいます。

集まり、それぞれの長所眼差し、観点からの気づきや発言が理念やミッションを多角的に立体的にし、理解に深みを与えていくのだと感じます。

今回は、白川園様のミッション(理念)「ひとりのいのちの中に寄り添う」ということについて、それぞれの施設の皆さんが混ざったグループを作り、「円対話」を通じて振り返って頂きました。それぞれの施設からの理念に関するエピソードを聴かせて頂く、「寄り添う」ということに対する様々な視点や深さを知ることができ、法人理念が立体的に感じられました。

この法人様のミッションについて、「ひとりではこれは何も実現できないだと思っです。だから感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思っているんです」という言葉が参加者からありましたが、本当にその通りだと感じます。組織は様々な役割の人々、個性の集まりだからこそ、互いに尊敬しあい、対話しあい、学びあい、理念を磨きあっていくことを私たちも大切にしていきたいと思えます。



【一円対話】理念からの振り返り介護、医療、児童、発達支援と様々な施設、役割の皆様で理念を深めあい、学びあいました。

どうぞのカン

東京都にある光明第一保育園様へ訪問した際に、ある先生から一つの取り組みについて教えて頂きました。

その名も『どうぞのカン』。その先生は「いつも忙しく頑張っている仲間が、少しでも休憩できたり休まるようにと思っつて、この一年かけて休憩場所にお菓子を入れたカンを用意していたんです。無くなったら補充して…と繰り返していたのですが、ある時に誰かがお菓子を補充してくれていて…」

それでこの缶のことを『どうぞのいす』という絵本に見立てて、『どうぞのカン』と名付けて、「どうぞのいす」と仰って、休憩室の冷蔵庫から実際に『どうぞのカン』を見せて下さいました。するとその日も、カンの中には誰かがお菓子を補充してくれていたようで、塩飴などが入っていました。「暑いから熱中症にならないように」という

心配りでしょうか。その真心の連鎖に、お菓子を食べなくても心も体も癒される思いがしました。

そして、こんな風に二年かけて継続してきた真心からの環境づくりが、今、先生方のおもいやりの文化になりつつあることに感動しました。

簡単にあきらめずに、時間がかかっても信じて熱意を持って取り組む姿勢や思いやりの広がるあたたかな環境づくりを私たちも見習っていききたいと感じています。



【どうぞのカン】お菓子だけでなく、先生たちの真心がつまっています。

G T サミット

2017年8月21日〜22日にギビングツリー主催『G T サミット2017』を開催し、全国から65園、計84名の理事長・園長先生方にご参加頂きました。

今回のプログラムでは、白梅学園大学の無藤隆様、秋草学園短期大学の加賀谷崇文様を講師としてお招きしました。加賀谷様からは、「保育士養成校の学生の現状」について無藤様からは「これからの幼児教育について」ご講演頂きました。

無藤先生は指針改定の中心人物の一人でもあり、懇親会の最後にG T 役員を代表して倉掛先生が挨拶され、そこで無藤先生への御礼と共に新指針についてご質問されました。倉掛先生は改定のポイントを述べられた上で「今回の改定の根底に『非認知能力』があると思いますが、実際の



【会場の様子】先生方の熱気あふれる2日間のセミナーとなりました。

指針の中には一切その文言がないのはなぜでしょうか?と質問を投げかけられました。それに対して「私(無藤先生)と秋田喜代美先生で『非認知能力』を『学びに向かう力』と言い換えたのです。認知、非認知という難しい学術用語を平易な言葉に変えたのです。」と返答を頂きました。

指針が変わる中で変化していくことを抑え取り組む大切さ、そして目の前にいる子どもたちを見守る大切さも同時に感じました。園のトップの先生方が、子どもたちのために何ができるかを考えられているように、私たちも今できることを尽力していきたいと感じました。

CCN Caguya Company News カグヤニュース

※カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

再生の本義

福岡の古民家「聴福庵」の再生を始め、一年半。日々、佳境を迎えております。そんな中、多くのゲストが宿泊することになった8月、いざ準備を始めてみると足りないものだらけ。それに加え、建物自体の修復作業も休むわけにはいきません。そうなるとうゲストと言えど、手が空いているなら・・・ということに。体力のある若い男性ゲストには人生初の井戸掘りを、女性のゲストは炎天下の路地裏の草むしり、ちよっと様子を見に来ただけのパートナーさんにも、



水漏れしていた洗面の配管も修繕していただきました!



まさか炎天下での草むしりが待っていたよとは・・・。



立派な竹がこんなにたくさん♪命がけの作業だったそうです。



子どものように無邪気に楽しむ男性ゲストの笑顔が最高でした!

器にする竹を大量に切り出して頂くという、いづれもかなりハードなお手伝い。誰もが初めは戸惑いの表情ですが、作業が終わるころには晴れやかな笑顔に変わっており、再生が建物や地域だけでなく、それに関わった人の心も再生してくれるのを感じます。再生はひとりだけで行えばただの修復、単なる趣味になってしまいます。でも地域の人次や、例えその土地や建物に直接的には関わりがない人とても、共に関わり合うことではじめて再生されることを知る機会になりました。

若さの本質

先月の初心会議には某学園の女子高生が見学に来てくれました。会社見学といつても普段の初心会議と変わらさず、一緒に沢山の実践を行いました。皆と一緒に朝食を頂く「モーニング」、致知を讀んで学び合う「社内木鶏」、協力を意識を高めて楽しく会議に臨むための「アクティビティ」、一ヶ月を動画で振り返る



同じ理念を持つ学園の生徒が見学に来てくれたのは私たちにとっても有難いことでした!!

「ときめきムービー」、更には、先月の仲間の陰徳の行いを発表する「徳の宝」や誕生日を迎える仲間を祝う「お誕生会」など…。そんなカグヤらしい一日を一緒に過ごした彼女からは「アクティビティや徳の宝など学校でもやってみたい!」との声。

「いーい」と感じたものを自分の居場所に取り入れていこうとする姿に、素直さや先入観のない柔軟性、吸収力を感じ、それは「若さの本質」のようにも感じました。彼女のように周りに耳を傾け、好奇心から学び、吸収していきながら、生き方や姿勢は柔らかく、自分たちを刷新し続けていきたいと思えます。

日本の心の継承

今年もカグヤでは「夏季実践休暇」としてお盆時期を過ごしました。実家に帰省したり、自宅でお盆飾りをしたりと、それぞれの場所でご先祖様をお迎えしたわけですが、「お盆」というものはご先祖様だけではなく、近所の方やこの時期にしか会えない人など「同が会し、顔を合わせ今年も皆元気で良かったと確認し合う期間なのだとも感じます。子どもたちにとっても日本を知る大

一期一会庵

「古井戸の甦生」続き

先々月から掘り始めた手掘りの古井戸は、ようやく最後の仕上げを終え無事に甦生することができました。振り返ってみると井戸掘りの最中は不可能に思えたことばかりの困難な作業の連続でしたが、御蔭様で関係者の皆様に助けられ仲間の協力があり「信じる力」が働き奇跡ばかりが起きました。今回のその奇跡のお水をいつまでも忘れたくないと思い、美しい暮らしが子どもたちへ永遠に継承されることを願い、井戸の水神様をお祀りすることにしました。こうやってご先祖様も祈りを子孫へと伝承してきたのかもしれない。

私たちは信じるということ、お祈りすること、そして実践すること、感謝することを繰り返すこと(一つひとつの心の「縁」を結んでいくように思えます。つまり「縁」と御蔭様の有難さを感じながら一つひとつが自然に時間をかけて実り結ばれていくの

切な機会になります。代々のちが繋がれてきたことで自分が生きていることを今はなんとなくでも感じてもらえたら、この「夏季実践休暇」も年々厚みを増していくのではないかと思っています。日本の心を未来の子どもたちへと継承できるような実践を続けていきたいと思えます。



カグヤの社内でもお盆飾りの室礼が登場しました♪

編集後記

● 今月も竹取新聞をご愛読頂き、ありがとうございます。季節の変わり目ですので、体調管理には充分気を付けてお過ごし下さいませ。

カグヤは「子ども第一主義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます。



本社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング2号館10階
tel.03-5909-7155
fax.03-5909-7199

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

☎ フリーダイヤル 0120-917-389
URL: <http://www.caguya.co.jp>
E-mail: support@caguya.co.jp
受付時間 月～金 9:00～18:00
(土・日曜祝祭日を除く)